

## 第 35 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 6 月 15 日（火） 14：00～16：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

### 1. 東電エンジニアリング状況について

東京電力からエンジニアリングの状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

一時保管設備の検討状況について

- 取り出した燃料デブリの性状、安定性に留意して、検討を進めることが重要である。
- 収納容器寸法やセル内でのデブリ取扱量、修繕セルのレイアウトについて、全体の流れや実際の管理・運用方法に十分留意し検討を進めることが望ましい。

2号機シールドプラグ高濃度汚染への対応状況について

- 今後の調査やサンプル採取においては、遠隔ツールを用いる等により作業員の被ばく低減を図る工夫をすることが重要である。

### 2. 取り出し規模の更なる拡大に向けた工法評価方針について

東京電力から取り出し規模の更なる拡大に向けた工法評価方針について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 工法の評価においては、廃炉作業の進捗に伴い明らかになっていくと考えられる原子炉格納容器や原子炉圧力容器の内部情報等の反映や、燃料デブリ取り出し全体工程にも留意し検討を進めることが重要である。

### 3. 戦略プラン 2021（デブリパート）一次案について

NDF から戦略プラン 2021（デブリパート）一次案について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 事故原因究明活動は、廃炉作業にも活用可能な情報を得るとの視点からも有用であり、連携しつつ可能な範囲で引き続き調査を進めることが重要である。
- 課題に対する取り組みにおいては、前年度からの進捗が読み取れる工夫をしていくことが重要である。

### 4. 遠隔装置保守及び PCV 内連続監視の技術開発について

NDF 及び東京電力から遠隔装置保守及び PCV 内連続監視の技術開発について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 多種多様な装置に対して、どのような保守を行うかの方針を体系立てて整理し、策定していくことが重要である。

- スループット維持の観点では装置を保守だけでなく廃棄するという発想もあり、廃棄物量低減も考慮のうえ、装置を小型パーツで構成して部分的に交換・廃棄ということも含めて検討を進めることが望ましい。

以上